

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100056		
法人名	たけのこ株式会社		
事業所名	佐尉郷の驛		
所在地	大分市大在中央2丁目8番11号		
自己評価作成日	平成26年5月1日	評価結果市町村受理日	平成26年8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/44/index_nhp?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&jigyosyoCd=4490100056-00&PrefCd=44&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壺番館1F		
訪問調査日	平成26年6月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・入所者ひとり1人の個性を大切にされたケアを行い「その人らしさ」を実践できるようにチームケアで取り組みます。認知症であっても、専門の知識を持った職員が日々の支援を行うことで、尊厳を保ち、楽しみを持ち、日々の生活を楽しく安心して過ごせる環境を提供します。また、ご家族や地域の方々が開かれた施設として、地域の行事に参加、来演して頂き利用者様と地域の交流を行ないます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念である「その人らしさ」をそれぞれの職員がケアの根っこに捉えて、日々利用者との時間を送る中で、利用者に寄り添い、傾聴に努めています。日常生活の中で活性化を図り、その人らしさを視点にしたケアに取り組んでいます。経年による高齢化、重度化という現状に「寝たきり」の方を出さない取り組みと尊厳を重視したケアが確認できました。職員は認知症ケアのプロとしての意識が高く研修会や勉強会等で常に自己研鑽に努めており、お互いが切磋琢磨している姿が確認できました。もう一つの理念である地域交流に力を注いでおり、事業所のホールを地域に開放し「認知症予防体操」や相談受付等の交流を行う中で、地域の行事にも積極的に参加しています。徘徊される利用者をおきにおき実家の様子を見に帰ることを続けられている方もおり利用者の思い、要望を真摯に取り組んでいる事業所です。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を掲示し、職員会議開始時に毎月呼称し確認を行う。	認知症ケアの専門施設として、温かみのある介護を目指し、研修、会議等で、理念の共有(意識を深める)実践に繋げる中で、利用者の「あなたらしさ」を重視した支援の取り組みを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加、ボランティアの演芸を招き交流を図る。こちらからお願いするだけでなく、地域の施設(保育園、幼稚園、学校)からお声をかけて頂ける関係が出来つつある。	自治会に加入し、相互の行事参加を通して交流を積み重ねています。地域紙を大在地区全戸に配布し、事業所の紹介、認知症に関する情報提供を行っています。又、地域の方に事業所のホールを開放しており地域交流を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域紙に記載。又、運営推進会議にて参加頂いた自治会の方々を通じて発信。外部から一般の方々を招き、当苑で認知症の予防などについて体操等を交えながらお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生委員、老人会、市等から様々な意見、指摘を募り、説明や実践状況を話し合っている。その内容を職員で共有しサービス向上を図る。	運営推進会議は、各分野からの委員で構成され、2ヶ月に1度開催されています。検討事項やヒヤリハット事例等の経過、対策、改善を報告しています。又、職員会議で、運営推進会議の内容を伝え、サービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃からは行えていない。運営推進会議が主な連絡の場となっている。	運営推進会議に市の担当者、地域包括支援センターの職員が参加されており、その機会が情報提供や連絡の場となっています。	市に出向いた時(認定申請等)に、職員に事業所の問題点や課題について相談、アドバイスをもらう等、気軽に相談することで、相互の関係構築に努められるよう期待されます。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で研修を実践している。職員間で話し合い、管理者やリーダーに報告検討をする。	身体拘束及び虐待について、運営規定、重要事項説明書等に記載されています。全職員は研修を重ね、身体的、精神的な弊害について正しく認識しています。	定期的な研修・勉強会で、身体拘束、虐待について検討を重ねています。職員には、利用者に対する言動が不適切なものでないか、振り返るとともに、職員間でも注意し合える関係がサービスの質の向上に繋がると考えられます。今後の取り組みが期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が外部の研修に参加し会議にて報告、研修内容の共有を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会をもっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前から十分にコミュニケーションをとり、誤解や疑問等をもたれないよう説明を行っている。説明するだけでなく、意見を求める機会を多く持つようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族面会の際に最近の様子を伝え、要望や施設の取り組みを話し合う。なんでも言ってくれるような雰囲気を作る事を心がけている。要望があった際は職員で話し合い実践できる物は実践していく。	ユニット毎に窓口担当者や連絡先が明確になっており、相談や意見が出しやすく、家族にとって安心と信頼に繋がっています。家族会(年1回)にも多数の参加があり、意見等が気軽に出せており、意見は運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議での積極的な意見交換を行うため、日頃から声をかけ、職員1人ひとりの思いや不満をくみとり、書留める。良好な関係を作ることがよりよい職場を作る第一歩と考えている。	定期的に個別面談を行い、意見や提案を聞いています。管理者も日々のケアに入り、職員との意思疎通を図るとともに、職員の意欲の向上やサービスの質の確保に繋がっています。	代表者は管理者、職員個々について把握し、個別に仕事内容や労働環境、条件(有休等)などの整備を行い、常に意欲を持って働けるよう努めています。更にモチベーションを上げる環境整備を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部からお褒めの言葉を頂いた場合は、職員に伝え、感謝の気持ちを伝える。仕事は大変で、残業があるのが現状です。職員のご好意に甘えています。改善を幾度も試みましたが、現在の所、明確な改善はみられていません。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議で研修報告を受け情報を共有している。上手いかない時は、成功例を共有し身体と心の負担が軽減するよう声をかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は行っていない。行うべきだと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1人1人十分に耳を傾ける事が出来ていない。介助に多く時間を取られるようになり、会話をすると意識が低下していると感じます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には声をかけ、会話をする様に意識しています。施設側に言いにくい事でも何でも言って下さるような関係作りを心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の関係作りはとても大切だと考えています。サービスも含めたりリスクや生活習慣などを聞く、説明する事を繰り返し行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に、利用者様が「自分なら」と考えるようにしている。全てにおいてそれが出来ているとはいえないが、職員の意識は高いと感じます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全てのご家族では無いですが、自宅に連れて行って頂いたり、買い物やお食事に連れ出してくださっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会が中心になっている。面会が少なくなっているご家族に対しては、会いに来てくださるようにお手紙や、電話連絡している。	利用者は入所したことで、これまでの生活を諦めるのではなく、出来る限り、馴染みの関係を継続できるよう、支援に取り組んでいます。全員の利用者を支援することは、困難なようです。	馴染みの場所に外出する事は勿論、家族と連携することで、友人の訪問を依頼したり、年賀状を一緒に作成し知人や親類に送る等、全員の利用者の馴染みの関係継続の支援を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わり合いにより、時に喧嘩になることもあるが、相手を思いやる事が多いと思います。トラブルを恐れず、利用者様同士が良い関係を築けるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方より今でも電話がかかって来ます。なじみの関係だった職員と良く話し、なじみの利用者様に会いに来てくれた事もあり、今でも関係が続いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接伺うことが困難であり、日ごろの会話や何気ない発言、表情から得るよう関わっている。一例として、飲み物のメニューを作りご自身に選んで頂く。答えが出ない場合は、以前の記録を参照し、好きな飲み物を提供する。	利用者や家族からの聞き取りにより、一人ひとりの思い(本音)や意向の把握に努めています。「あなたらしさ～」の理念のもと、常に興味をばらい思いの把握に努める中で、記録により職員間で情報の共有を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、御家族に起床時間から、就寝時間まで細かく教えて頂き、当苑での生活に反映する。出来るだけ、ご本人の生活習慣に合わせて過ごして頂けるように支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活の記録を共有することで把握をしている。心身状態は日々変化することであり、少しの変化も共有し、対応している。ただ、決まった記録になりがちであり、新たな気づきを得られるような関わりが必要だと感じる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人から伺えない場合にそなえ、日々の様子を職員で共有する。ご家族の面会時に、その時の要望を伺う。ケアについては職員全員の意見を聞き、議論し、反映する。	利用者の意見と担当職員の気づき、アイデア等を基に、利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成しています。見直しは6ヶ月毎に行っていますが、変化が生じたり家族の要望があれば臨機応変に計画の見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、日誌、排泄チェックシート、連絡帳、申し送りを活用。最近の事例では、食事を取らなくなった方の原因や、食事介助に拒否がある際の良い言葉かけの例を書面で共有し、できる職員、できない職員をださないようにした。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに従事している。発送を豊かにする為にどうすべきかを考えなければならない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の公民館、保育園、学校、公園、祭り、スーパーを利用している。近所の100円ショップに出かけた際には、お願いせずとも椅子を準備して下さり、休みながら快適に利用者様がお買い物できる環境を提供してくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の希望はご家族やご本人の意向を最優先にしている。受診には職員が同行、問診時に様子を説明する。ご家族に立ち会って頂く場合もある。定期的な往診があるかかりつけ医もある。往診がない場合は、受診にお連する	受診や往診において、個々の利用者・家族の意向に基づいた医療機関の選択及び支援に取り組んでいます。家族と職員との情報の共有を大切に、日常的な体調管理や相互の協力的な関係作りに努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や、ケガ、便秘等あった場合はPHSにて即座に連絡が取れ、対応する体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要な物など全て家族任せにせず対応している。様子を把握するため、電話連絡や面会を行う。日ごろから病院関係者の方に感謝の気持ちを伝え、良好な関係を作れるようコミュニケーションをとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全てのご家族に「もしも」の時の事を考えていて欲しいと伝えています。ご家族のご意思を統一して頂く事が大事と考えている。その時になって急に重度化、ターミナルの話になってご家族に混乱や迷惑をかけることはあってはならない。	終末期の看取り支援において、医療機関との連携・チームケアに向けた職員相互の体制作りが行われています。利用者の高齢化の現状の中で、家族の思いの尊重に基づきながら、寄り添い合える支援への取り組みに努めています。	終末期の看取りの取り組みについて、施設の説明「看取り指針」や利用者・家族の同意の表明を明示する「意思確認書」の明記、経過の記載の様式の策定が望まれます。全職員間での協議に期待が持たれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	GHなごやか玄関にAEDを設置。急変時のマニュアルを各ユニットに掲示。AEDに関しては、使用方法を定期的に研修しなければならないが、頻度は少ない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防法に基づいた訓練の他に、毎月防災訓練を行う。防災チェックシートの活用。各ユニットに防災委員を配置。消火器の位置や避難経路、通報方法、避難場所の確認の訓練を定期的に行う。	消防署の立会いによる火災避難訓練の実施と、アドバイスを受けての課題の検討が図られています。火災による夜間防災を想定した避難訓練の実践に取り組むなど、危機感を持ち、安全対策に積極的に努める姿勢が伺えます。	災害時における安心・安全な生活支援への取り組みとして、近隣住民への協力依頼など、より迅速な避難対策への協議・体制づくりに希望が持たれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マナーとモラルを意識し、相手を尊敬し常に敬う声かけを行う。「さん」呼びを行なっている。職員全てに高い意識があると感じています。問題がある言葉遣いや態度にはその都度職員間で指摘している。会議に議題として提出、議論する	「接遇・羞恥心・生活場面での言葉かけなど」の研修(年2回)が行われています。個人の尊厳・安らぎのケアへの向上に繋がる支援として、チームワークを大切に、相互の意見交換・情報の共有を考慮する職員の姿勢が伺えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間には飲み物を選んで頂いている。好みの服を選んで頂く。入浴や足浴は予定日でなくても希望に沿うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様中心の生活の支援を最大限行っているが、全てを実現するに至っていない。職員も記録などの業務を後回しにしてケアに努めている。改善を幾度か試みたが、効果は薄い。対策を模索中である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が答えられない場合は昔の写真などを参考に髪型や服装の好みを参考にします。2ヶ月に1度出張理美容があり、髪型に関してご家族の要望やご本人の意思を反映できるように理容師に伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お菓子やぼた餅、饅頭作り等、一部の利用者様であるが楽しんで手伝ってくれています。食事は、職員も一緒に摂り会話も弾みませ。「ゆっくり食べよ」等、ご利用者様同士の気遣いも多くみられます。	調理担当職員を設けており、食べ易さの工夫・食の趣を味わう支援に努めています。状況に添った臨機応変な職員の対応(声かけ)が図られており、楽しめる食卓の雰囲気づくりを大切にしています。イベント食にも取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お食事代金を頂いていますので、基本は皆様均等に提供しています。一日に魚、肉、野菜をバランス良く提供することに努めています。食事摂取量や水分摂取量は記録し、時には補食を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっています。うがいやうまくだい出しがうまく出来ない方がいらっしゃいますが、声かけやジェスチャーなどで出来る事があります。義歯の方は週おきに洗浄剤にて消毒を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、トイレの訴えの無い方はこちらから声をかけお連れします。トイレの認識が困難な方がいらっしゃいますが、ゆっくり関わることで認識でき、失敗が少なくなっています。	排泄パターンの把握や利用者のサインへの気付き、状態の変化を全職員間で周知する中で、情報を糧とし個々の利用者への共通の支援に繋がっています。体力保持・清潔保持の視点からも日常生活でのトイレ誘導に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃の食事にヨーグルトをつけたり、便秘予防の体操を行なっていますが、十分とはいえません。認識が無い方は、ゆっくり伝えることでお通じが良くなり予防に繋がっていると思います。それでも便秘になる方にはお薬で対応します		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間、曜日は職員できめている。拒否が多い方などは、穏やかな時に入浴して頂く事が大切であると考え、曜日に関係なく入浴して頂いています。入浴時には歌ったり、会話する事を心がけています。	意向を踏まえながら、心身の状態に合わせた臨機応変なケアに留意する中で、利用者の安心・安全(特殊浴など)のくつろぎや、心地よくリラックス(入浴への認識づけと声かけ・入浴剤)出来る楽しみの援助への配慮が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜を問わず、眠そうにされている方には極力声をかけず、ゆっくりして頂いています。場合によっては居室にて休んで頂きます。夜間、不安で眠れない方には傾聴し、安心して休んで頂けるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	認識して頂く事が出来ていません。ですが、服薬の際には「～のお薬です」とお伝えし、飲んで頂いています。状態の変化で、新たにお薬が処方された際には、職員で共有し、様子の変化を記録します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花や、裁縫、歌等、個別でも多数でもそれぞれの特技や好みに対応して支援しています。気分転換で、暖かい季節には中庭で夕涼みをかねて、皆で歌ったり、体操をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	大在地区の行事には声をかけていただき、参加させて頂いております。一部の方ですが、定期的にご自宅にお連れし、庭の手入れの支援を行っています。	個々への配慮、思いの汲み取り・体調の変化の把握を大切に楽しみ事の支援に繋がっています。外気浴による気分転換(下校時の小学生・ご近所さんとの対応)、買い物や定期・習慣的な故郷訪問、又、地域行事(運動会など)への参加による相互交流にも取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方ですが、ご家族の協力のもと、お金を所持しています。時々買い物に出かけます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の方ですが、ご家族と電話で連絡をとりあっている方がいらっしゃいます。※ご本人は難聴のため、職員が代理で電話しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	異食される方がおり、トイレは殺風景です。1日1回トイレ掃除をしていますが、汚染があった際は、その都度消毒、掃除を行なっています。食事時は落ち着けそうな音楽を流し、食事の雰囲気を出すようにしています。季節を感じていただけるような食事回を行なっています	安全と安らぎを考慮しながらリラックスできる共用空間の提供、個々がくつろげる雰囲気づくりに取り組んでいます。相性の配慮、体力保持と歩行訓練(施設探検)や趣味の援助(生け花・合唱など)、手足・顔のケアの楽しみ事の支援も行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置し、くつろいで頂いています。和室では、希望があれば按摩を行なっています。良好な関係の利用者様同士、隣同士で過ごして頂き、雑談を楽しんで頂いています。中庭でお茶をすることもありません。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは備え付けであるが、なじみの物を持ち込んで頂くことも可能。ご利用者様の希望で、畳のお部屋にしている方もいます。なじみの家具やくし、洗面用具を証していただいています。	個々の利用者の思いの尊重、安らぎの雰囲気づくりに向けた環境の配慮に取り組んでいます。家族との相互交流を大切に支援の一途に繋げており、協力を得ながら、心地良く過ごせる居室の提供に努める職員の姿勢が伺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室には手すりがあり、手すりを使用することで自力で歩ける方が居ます。洗濯物たたみや、お盆拭き、テーブル拭きを手伝ってくれています。		